



村の特産品

設定

村に移住した父子が村の儀式と称した不思議な液体による洗礼、浄化を受け、追い詰められていく、、、。

主な登場人物

19 歳 戸塚 翔

ボディビルダーを目指しトレーニング中、通信制大学所属、父の動画配信チャンネルに出演。明るく負けん気の強い性格。

39 歳 戸塚 武

WEBライター、ボディビルダー等のボディコンテストに出場しながら動画配信も行っている。温厚な性格で息子思い、寡黙で男らしい。

移住

村に近づくと、まず空気が変わる。湿り気を帯びた風が頬をなで、土と青葉の匂いが肺に満ちていく。そこでは、特定の植物が青々と茂っていた。背丈は人の腰ほど、葉は厚く艶やかで、朝露が光を反射し輝いている。村を縁取る帯のように、規則正しく、その勢いを失わずに広がっている。

朝から元気に駆けずり回る子どもたちは、無意識のうちに足取りを緩める。踏み入れてはならないと教えられてきた場所の前で立ち止まり、じーっと見ている。そしてまた何事もなかったかのように笑いながら、反対方向へ駆けていく。

翔は今日この村へ父である武とともに移住してきた。

WEBライターをしながらボディビルダー兼動画投稿サイトのチャンネル運営をしている武は、この村の「I ターン希望者には無料で空き家を提供」というキャンペーン特典とこの村の美しい環境に一目ぼれし、ここへの移住を決めた。1000 人にも満たないこの村に似つかわしくないハイスペックなトレーニング施設があることも移住の決め手となった。

村と言っても都心から電車で約 2 時間。ボディビルの大会に出たり、時々ある仕事の関係者との打ち合わせの時だけ都心に出ることを考えれば、そんなに不便ではない。

翔も武の影響を受けボディビルに熱中しており、将来はプロになりたいと考えている。そのため、大学は通信制にかよっており、月 1 回程度

の登校日以外はオンラインで授業を受けている。また、武の動画配信チャンネルに出演しているが、それも二人がいれば撮影できるため障害とはならなかった。翔もこの村への移住には賛成だった。

父子は途中出くわした爽やかな警察官と話をしながら村長宅へ向かった。その警察官も異動でこの村にきたらしい。人の良さと環境の良さを気に入り、ずっとここにいることを希望しているそうだ。こんな若い人でもずっと住みたくなる村ってよほどいいところなんだな、、、そう思っているうちに村長宅に到着した、村長宅はかなりの豪邸で、村長だけでなく他の家を見ても豪邸と呼べるものがちらほらとあり、かなり財政の豊かな村だということを実感させる。

「今日からよろしくお願いします、村長さん。」

「よく移住を決めてくださいました。あらためて歓迎いたします。よろしくお願いします。」

村長や村の役員たちとの挨拶を終えると、家の設備の説明のために村長も家まで同行する。

「ここは、本当にいい村ですよ。変わった風習もありますが、慣れていくと思います。」

「ええ、見学に来たときも皆さん優しくて、それも移住の決定打になりましたよ。」

そんな会話をしているうちに家に到着する。家の設備の説明を一通り

受け終わったあと、村長から風習についての説明があった。何でも 20 歳以上の男は「穢れ」を持ち込む可能性があるため移住日にお清めを受けなければならないとのことだ。

そんな風習今もあるんだ、まるで俺らが汚れ物みたいじゃないか、俺はまだ 20 歳じゃないから関係ないけど、そんなことを考えながら翔は話を聞いていた。

夜になると、父である武は一人で「穢れ」浄化の儀式に向かった。

武は夜遅くまで帰ってこなかったため翔は先に寝てしまい、翌朝武にどんなことをしたのか聞いたがなぜか教えてはくれなかった。翌日もそのまた翌日も武は夜になると儀式に出かけ、深夜まで帰ってこなくなった。

「父さん儀式ってそんなに何日も必要なもんなの？」

「ああ、、、村の大事な風習なんだ、、、必ずやり遂げなければならぬい。」

余程過酷な儀式なのだろう、そう話す武の目の下にはクマができており、目の光を失っているように見えた。

父自らやりとげたいと言っているし、心配しても仕様がな、そう自分に言い聞かせ翔は父が再び元気になるのを待っていた。

今日も父はまだ帰ってこない、、、。